

薬剤耐性菌について

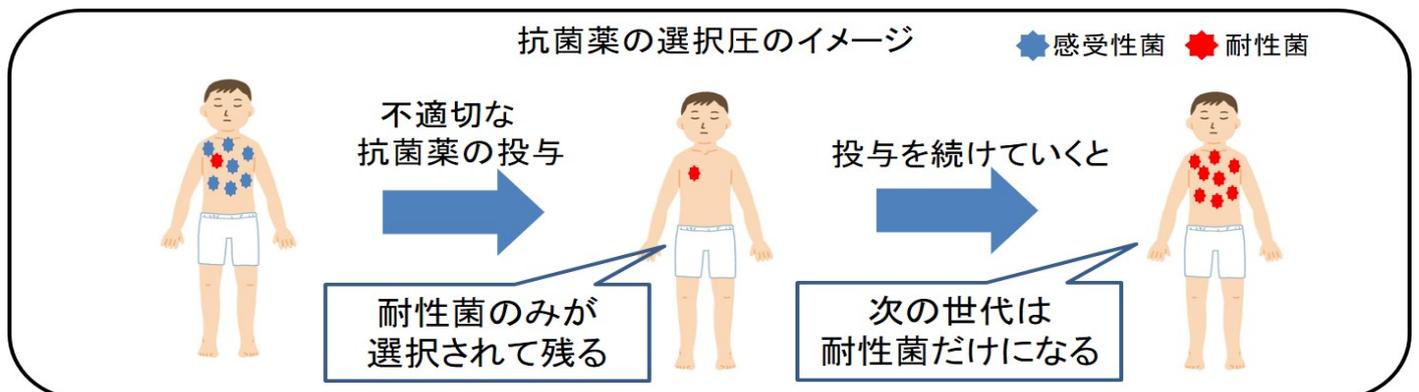
臨床検査技師 横山 和弘

薬剤耐性菌とは

抗菌薬が効かない菌のことです。感染症の治療の際、原因となっている菌に応じて抗菌薬を選択します。しかし薬剤耐性菌（以下 耐性菌）が原因の場合、これらの抗菌薬が効かないことがあります。代表的な耐性菌には MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）や ESBL（基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ）産生菌などがあります。複数の薬剤に耐性（多剤耐性といいます）の場合、治療の選択肢がなくなってしまうため問題となります。

なぜ薬剤耐性菌は生まれるのか

世界で最初の抗菌薬であるペニシリンを作ったフレミング博士も、ペニシリンに耐性の菌が生まれることを予測していました（実際その後すぐにペニシリンに耐性の菌が発生しています）。耐性菌はどうして生まれるのでしょうか？実は耐性菌は、抗菌薬を使用することで生まれます。菌が生き残る為に、抗菌薬の作用に合わせて自らの性質を変化させたものが菌の集団の中でごく少数ですが出現します。抗菌薬を使用していない状態では、耐性菌は大多数の抗菌薬が効く菌（感受性菌といいます）に押されて増えることができません。しかし、不適切な抗菌薬の使用（不十分な抗菌薬の投与など）により耐性菌だけが生き残り、大部分の感受性菌がいなくなってしまうと耐性菌だけがどんどん増えていきます。これを「抗菌薬による選択圧」といいます。



薬剤耐性菌を増やさないために～私たちができる3つのポイント～

1. 処方された抗菌薬は、**用法・用量を守って**服用する
不適切な抗菌薬の服用は、耐性菌が生き残る原因となります。耐性菌を増やさないために、病気が治ったと思って途中で服用をやめずに最後まで飲み切りましょう。
2. 風邪をひいても**自己判断で抗菌薬を服用しない**
ほとんどの風邪の原因はウイルスのため、抗菌薬は効きません。医師の診察による適切なお薬の処方を受け、不必要な抗菌薬の服用は避けましょう。
3. 手指衛生など**基本的な感染対策**を行う
「ヒトからヒト」や「ヒトから環境」への耐性菌の拡散を防ぎましょう。